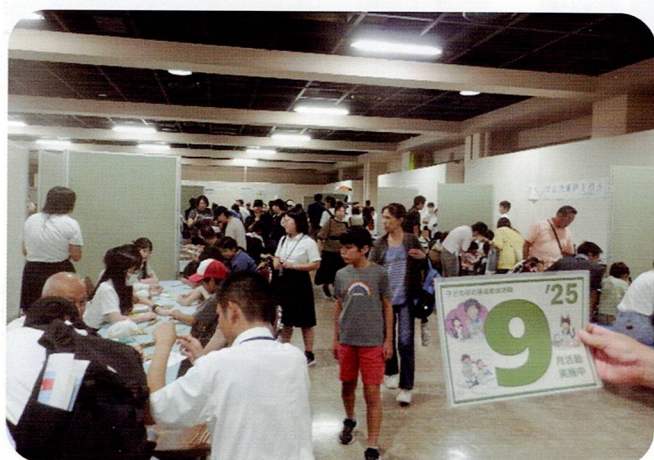


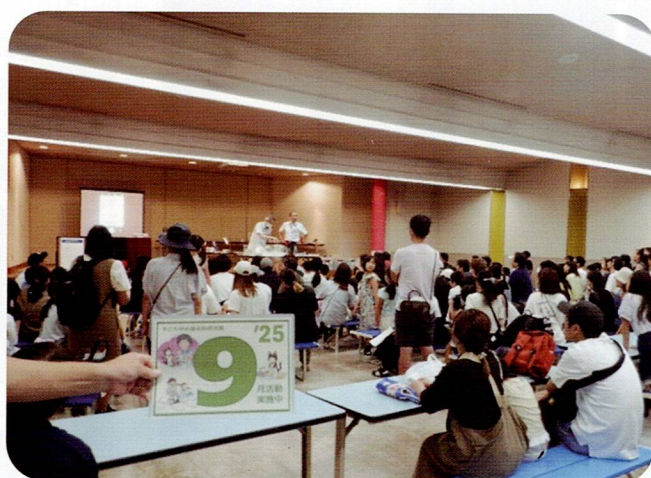
「青少年のための科学の祭典ひょうご県内大会」のご報告

ひょうご県内大会連絡協議会委員長 原 俊雄 はら としお

第31回を迎えた兵庫県内5会場（丹波市、豊岡市、加古川市、姫路市、神戸市）の科学の祭典は、7月の末から9月の初めにかけて開催しました。この間、2020年と2021年はコロナ禍で中止しました。コロナ禍前後の5会場の来場者総数（カッコ内は神戸会場来場者数）の変遷は、2019年：12,087（5,864）、2022年：6,561（3,059）、2023年：7,307（3,587）、2024年：9,095（4,902）、2025年：9,176（5,408）でした。コロナの影響で半減した来場者数でしたが、多くの方のご支援もあり、順調に回復してきています。



ブースが並ぶ主会場の風景



ステージでの演示実験
(-196℃の世界を体験しよう！)

科学の祭典を開催するには、生徒一人一人にチラシを配布し、保護者とともに来場することを促す広報活動が重要です。生徒にチラシを配るにあたり、その地の教育委員会のご理解とご協力を得て、教育委員会から各学校、各生徒に配布するシステムを利用させていただいていました。しかし、5年ほど前から、教員の働き方改革の一環だと思いますが、外部団体からの配布物の受け入れを禁止する教育委員会が増えてきました。科学の祭典を進めるにあたり、チラシ配布等の広報が課題になっています。

2025年の科学の祭典の運営資金は、5会場総額で6,938,316円（神戸会場は1,944,182円）でした。これには、くさの会からの助成金も含まれています。この場をお借りしてお礼申し上げます。これからも、くさの会のご協力、ご支援をお願いします。



化学科卒業生も出展しているブース
(火のついたローソクに、コップをかぶせると？)

●●● ひょうご県内大会会場 ●●● (来場者総数：9,176名)

丹波会場	7月27日(日)	ショッピングセンター ゆめタウン「ホップアップホール」	412名
豊岡会場	7月26日(土)、27日(日)	但馬文教会会議室、ふるさと交流館	530名
東はりま会場	8月2日(土)、3日(日)	加古川総合文化センター	1,202名
姫路会場	8月9日(土)、10日(日)	兵庫県立大学姫路工学キャンパス	1,624名
神戸会場	9月6日(土)、7日(日)	バンドー神戸青少年科学館	5,408名